

科目名	Tokyo P-TECHプロジェクト実習							年度	2025
英語科目名	Tokyo P-TECH Special training							学期	通年
学科・学年	AIシステム科 1年次	必／選	選P	時間数	60	単位数	2	種別※	実習
担当教員	Tokyo P-TECH関係者、大矢	教員の実務経験		有	実務経験の職種		IT関連職種		
【科目の目的】 最新技術を業界のプロフェッショナルの指導のもとプロジェクト方式で体験し、アウトプットすることを目的とする。多様性が求められる昨今、さまざまな環境にいる人との交流を持つことが多様な価値観を持つ他者への理解につながる。本実習では、Tokyo P-TECH関係者らによる知的好奇心および探求心を刺激するとともに、他者との協働関係または競合関係から想像、発想をカタチ（モノ・コト(サービス)）にする取り組みを体験する。									
【科目の概要】 他学科・地域・企業と連携した課題解決や各種コンテストへの出場など、プロジェクト単位の活動を通してチームの役割を学ぶ。なおプロジェクトは期間中に複数回、取り組む計画である。									
【到達目標】 地域連携やコンテスト出場を通して、メンバーで成果物を完成させることを目標とする。最後まで成果物を完成させることで、専門技術の向上を目指す。また、プロジェクト活動を通じ、学生間の問題解決力、対話力、合意形成力を身につけ、プロジェクトマネジメントの基礎技術を身につける。									
【授業の注意点】 本講義では学生が主体的かつ能動的に学習する姿勢を重視する。レポートは、聴講内容を羅列するだけではなく、自らの考えや新たに学習した事柄について調査および検証した結果等を記載することを求める。講義に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める。ただし、授業時数の4分の3以上出席しない者は成績評価することができない。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック 評価	レベル5 優れている	レベル3 ふつう				レベル1 要努力			
到達目標 A	最新技術動向に深く関心を持ち、主体的に勉強会に継続的に参加している	最新技術動向に関心を持ち、勉強会に参加したことがある				最新技術動向に関心を持たず、主体的に勉強会に参加したことがない			
到達目標 B	最新技術動向に深く関心を持ち、主体的にカンファレンスに継続的に参加している	最新技術動向に関心を持ち、カンファレンスに参加したことがある				最新技術動向に関心を持たず、主体的にカンファレンスに参加したことがない			
到達目標 C	プロジェクト活動を行う上で自らの役割、責務を認識し行動することができる	プロジェクト活動を行う上で自らの役割を認識し行動することができる				プロジェクト活動を行う上で自らの役割や責務を理解することができない			
到達目標 D									
到達目標 E									
【教科書】 毎回レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料等は、講義毎に指示する。									
【参考資料】									
【成績の評価方法・評価基準】 レポート・課題 40% 授業内容の理解度を確認するために実施する 成果発表（口頭・実技） 60% 授業時間内に行われる発表内容について評価する									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

